

中東地域紛争犠牲者支援事業（保健） 派遣地：ヨルダン

看護師 藤原真由

私は現在ヨルダンで、保健要員として国際赤十字・赤新月社連盟に出向し、ヨルダン赤新月社の地域住民参加型保健事業（CBHFA：Community Based Health and First Aid）を担当しています。



ヨルダンでは、2011年のシリア危機以降、65万人以上のシリア人難民を受け入れています。ヨルダンにおける難民は、キャンプで生活している人はたった20%程度で、ほとんどは都市部や郊外で避難生活しています（2017年12月時点）。ヨルダンは、元々パレスチナなどからの難民も多くいるため、難民の受け入れには寛容でしたが、あまりの多さに対応しきれず、政府は無料で受けられていた医療サービスも打ち切り、確かな収入もない彼らは、十分な医療を受けることができなくなりました。また、ヨルダン国内でも、難民受け入れによる、物価や家賃の高騰などの影響を受け、貧困の拡大が問題になっています。

このような状況の中、ヨルダン赤新月社は2014年より、都市部に住むシリア人難民と、ヨルダン人を対象にCBHFA事業を実施しています。当事業は、対象地域のシリア人・ヨルダン人から地域ボランティアを育成し、家庭訪問や健康キャンペーンを通して、住民へ健康に関する知識の普及を行うことで、地域の健康状態向上を目的としています。現在、ヨルダンで一番の問題は生活習慣病です。そのため、偏った食習慣、喫煙習慣に対して、改善の必要性や方法、生活指導などをボランティアが地域住民に指導しています。行動変容には時間を要しますが、こつこつと草の根的に活動することが、対象地域の健康改善につながることを信じ活動しています。

私は当事業が円滑に行えるように計画や予算の管理、看護師という知識を活かして、健康に関するトレーニングの質の維持・向上



キャンペーンでの子どもへの歯磨き指導



衛生セット（歯ブラシ、歯磨き粉、タオル、石鹸）を渡す

を図っています。事業管理は一見看護師の業務とは異なるように思いますが、実際には看護師で培ったマネジメント能力やアセスメント能力、教育技術が非常に役立っています。また、事業の主体はヨルダン赤新月社で、私たち連盟は彼らをサポートするという点も、患者主体で彼らをサポートする看護師の役割と似ているかもしれません。しかし、突然の仕事が無い込んだり、伝えた期限を守ってもらえなかったりと、苦勞することも実際にあります。そんなとき、自分の行っていることが、この事業の先にいる住民の方の幸せにつながるはず、と信じながら、モチベーションの維持に努めています。また、実際にボランティアの家庭訪問がきっかけで、病院に受診し、糖尿病が発見されたという事例もありました。このような、当事業が、住民の健康に貢献していると実感できる話を聞くことも、この仕事のやりがいとなっています。

当院は、この事業に 2016 年 4 月から 2 年間継続して計 3 名の職員を派遣しています。

昨年 2017 年 1 月から 12 月の 1 年間で、109 人のボランティアを育成し、22,935 人の住民に健康教育を行うことができました。しかし、シリア人難民やヨルダン人を取り巻く環境は未だ厳しい状況です。長期化するシリア危機により、事業費の確保が難しいことも課題ですが、今後も住民の皆様へ寄り添った当事業が継続できるように、ヨルダン赤新月社をサポートしていきたいと思えます。



ボランティアへのトレーニングの様子



救急法のトレーニングの様子